2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士科(昼間部)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	臨床検査・診断機器学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	3年	学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員	福田 哲也 実務経験とその関連資格	臨床工学技士として、市立ひらかた病院、JCHO滋賀病院、島原病院などで15年業務(心臓カテーテル、医療機器管理、内視鏡などの業務),心電図検定3級合格。			

《授業科目における学習内容》

検査・診断機器の原理と構造について学習する。

《成績評価の方法と基準》

期末テストおよび小テスト、出席率、授業に取り組む姿勢などを考慮して総合的に評価する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書 臨床工学講座 生体計測装置学 (医歯薬出版株式会社)

《授業外における学習方法》

特になし

《履修に当たっての留意点》

不明な点や課題のポイントについては授業内で適宜質問すること。また、分野別の国家試験問題にて復習すること。

授美方	業の 法		内 容		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講義演	授業を 通じての 到達目標	脳波計測、筋電図計測の臨床的意義と装置の構造を学び、説明できるようになる。	おかまり、手・よゝトッドエコ	授業内容の理解度確認 のため授業後に小テスト を実施する。
	興習 形式	各コマに おける 授業予定	生体電気計測(脳神経系の計測、筋電図)	教科書および配布資料	
第	講義演	授業を 通じての 到達目標	脳波計測、筋電図計測の臨床的意義と装置の構造を学び、説明できるようになる。		授業内容の理解度確認 のため、前回の講義内 容について授業後に小 テストを実施する。
2	興習形式	各コマに おける 授業予定	生体電気計測(脳神経系の計測、筋電図)	教科書および配布資料	
第 3 回	理 通じての 義 到達目	授業を 通じての 到達目標	網膜電位計、眼振計の臨床的意義と装置の構造を学び、説明できるようになる。		授業内容の理解度確認 のため、前回の講義内 容について授業後に小 テストを実施する。
	興習形式	形 おける	生体電気計測(網膜電位計、眼振計)	教科書および配布資料	
第	講義	授業を 通じての 到達目標	網膜電位計、眼振計の臨床的意義と装置の構造を学び、説明できるようになる。	ガムイソーキ・ル・トッドエコ	授業内容の理解度確認 のため、前回の講義内 容について授業後に小 テストを実施する。
4 □	演習形式	各コマに おける 授業予定	生体電気計測(網膜電位計、眼振計)	教科書および配布資料	
о П	講義	授業を 通じての 到達目標	超音波診断装置の計測原理、構造を学び、説明できるになる。	ガムイソーキ・よっしゃ ドマコ	授業内容の理解度確認
	演習形式	各コマに おける 授業予定	画像診断法(超音波画像計測)	教科書および配布資料	のため、前回の講義内容について授業後に小 テストを実施する。

授業の 方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	講義演	授業を 通じての 到達目標	自動血液検査装置の原理と構造を学び、説明できるなる。		授業内容の理解度確認 のため、前回の講義内 容について授業後に小 テストを実施する。
6	漢習形式	各コマに おける 授業予定	検体検査(自動血液検査装置)	教科書および配布資料	
第	講義	授業を 通じての 到達目標	呼吸機能検査、スパイロメータの原理、構造を学び、説明できるようになる。		授業内容の理解度確認 のため、前回の講義内 容について授業後に小 テストを実施する。
7 回 刑	演習形式	各コマに おける 授業予定	生体の物理科学現象の計測(呼吸の計測)	教科書および配布資料	
第8回	講義	授業を 通じての 到達目標	自動分析科学検査装置の原理と構造を学び、説明できるようになる。	#44 ₹√ → → ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	授業内容の理解度確認 のため、前回の講義内 容について授業後に小 テストを実施する。
	演習形式	習 各コマに おける	検体検査(自動分析科学検査装置)	教科書および配布資料	